

1 目的

- (1) 各教科等の観点およびその趣旨を踏まえて3観点の評価ができるような、統一された評価基準および表現の文言を検討する。
- (2) 「授業づくり」と「観点別評価」との往還という視点から、次の授業づくりにむけた授業実践の評価を行う。

2 研究内容

- (1) 個別の指導計画の後期の目標にあたる授業を各学年から1つずつ授業提案を行った。
- (2) 小グループでの個別の指導計画の評価の演習や、授業実践に対しての意見交換を行った。

3 実施研究授業

- (1) 第1回研究授業 作業学習 紙工班

日 時	令和7年12月18日 2～4校時 (9:50～12:20)	
場 所	高等部木工室	
対 象	高等部1～3年 16名	
授業者	工藤則隆 (T1)、千田里佳 (T2)、菅田菜穂子(T3)、中田康則(T4)	
1 単元名	「製品販売会で販売しよう」(本時 67～69/120)	
2 単元の目標	(1) 自分の作業内容に必要な道具を準備し、終了後元の場所に片付けることができる。 <div style="text-align: right;">【知識・技能】</div> (2) 円滑に準備を行い、作業の時間を増やして取り組むことができる。 <div style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力等】</div> (3) 自分の作業の目標数を意識し、達成に向けて取り組むことができる。 <div style="text-align: right;">【学びに向かう力、人間性等】</div>	
3 本時の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度	
	自分の作業内容が分かり、道具の準備や後片付け等を適切に行うことができる。	自分で決めた目標の達成に向けて、効率のよい進め方を考え、工夫しながら取り組んでいる。
		前回の達成数を基に、教師とともに適切な目標数を設定することができる。

① 演習で行った各グループの評価について、意見・感想など。

- ・ 三観点評価が定着してきている。各グループの評価の内容は似ているが、観点の違いが分かれていることが興味深いところでした。こういったことを普段の会話で情報交換できると生徒の学習の習熟につながるのだと思いました。

- ・ 表記の仕方はそれぞれだが、目標や観点到に沿いながら、学習の様子が保護者に伝わるようになっていてよいと思う。
- ・ グループでは、指導案をみながら、評価基準のところの評価になるなあと話しました。
- ・ 複数生徒が対象となる場合、ある程度グループ分けして目標段階、評価基準段階が設定できるかどうか、全部個別に？と疑問です。
- ・ 同じ出来事でも、どれを知技、思判表、主体性にとらえて評価するのは違いがあるということが分かる評価だと思いました。

など

② 手立てに関する新たな提案

- ・ パルプ液用の水はバケツに入れておいてもよいと思う。
- ・ 現在行っている作業工程が全体・製品づくりのどの部分を担っているのか伝えていく。
- ・ どのくらいの作業量を行うと製品がどのくらいにできるなどわかると、すごさ繋がりが説明できるのではないか。

など

(2) 第2回研究授業 作業学習 木工班

日 時 令和7年12月18日 2～4校時 (9:50～12:20)

場 所 高等部美術室

対 象 高等部1～3年 15名

授業者 境田義人 (T1)、佐藤由紀子 (T2) 坂本賢太 (T3) 加藤和恵 (T4)

1 単元名

「製品販売会で製品を販売しよう」(本時 25～27/38)

2 単元の目標

(1) かんな盤やボール盤の安全な使い方が分かり、必要な材料の製材を行うことができる。 【知識及び技能】

(2) 木材の厚みや穴あけの目打ちの印を確認しながら作業することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 仲間と協力して作業に積極的に取り組み、確認や報告を行うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かんな盤やボール盤の使い方が分かり、安全に操作することができたか。	木材の厚みや印を確認しながら製材することができる。	仲間と相談したり、教師へ報告したりしながら積極的に作業を行うことができか。

① 演習で行った各グループの評価について、意見・感想など。

- ・ 「印を確認する」が同じ観点になっていることがポイントだと感じました。何をもちて判断しているかが授業の中でもしっかり見ていきたいです。
- ・ 3グループとも内容はだいたい同じであるが、まとめ方がほかのグループの方がすっきりしていて参考になった。

- ・ 表記の仕方はそれぞれだが、目標や観点に沿いながら、学習の様子が保護者に伝わるようになっていてよいと思う。
- ・ 「確認をしながら」という動きが、思考判断表現に含まれることを知り、参考になりました。

② 手立てに関する新たな提案

- ・ バンドソー、中腰で作業している。安心してできる。安全にできる姿勢ってどんなものが良いかと思った。
- ・ インパクトドライバーの作業する台が高いのでは？押し打つものなので生徒の胸の高さより低くする。
- ・ バンドソーの刃、必要な部分だけ出して他は隠した方がいい。

など

(3) 第3回研究授業 作業学習 農耕・園芸班

日時 令和7年12月22日(月) 2～4校時(9:50～12:20)

場所 高等部調理室・調理準備室

対象 高等部1年 3名

授業者 及川しのぶ(T1)

1 単元名

「収穫した野菜の販売と調理活動に取り組もう」(本時 25～27/38)

2 単元の目標

- (1) 包丁やガスコンロの安全な使い方、調理の手順が分かり、一人で調理することができる。 【知識及び技能】
- (2) 材料の分量や火加減、りんごの煮え具合を確認しながら作業することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 目標個数を意識し、達成に向けて取り組むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
包丁やガスコンロの使い方が分かり、安全に扱うことができたか。	砂糖の量やりんごの煮え具合を確認しながら調理できたか。	販売に向け、設定された個数を完成させようとしながら取り組むことができたか。

① 目標、内容、手立て、評価が児童の実態と合っているか。

- ・ 目標時間を意識して取り組んでいたかの判断は微妙だと感じた。
- ・ 評価基準のところの評価になるなあと話し合いました。
- ・ 複数生徒が対象となる場合、ある程度グループ分けして目標段階、評価基準段階が設定できるだろうか、全部個別に？と疑問です。
- ・ 評価例はどの学習においてもできると思います。ただ、生徒の様子を読み取り方は先生方の視点で大丈夫だと思います(多面的な視点)。知・技、思・判・表、主体的の読み取り方は、同じ活動をしていたとしても、単元が繰り返される作業学習だと異なってくると思います。

など

② 手立てに関する新たな提案

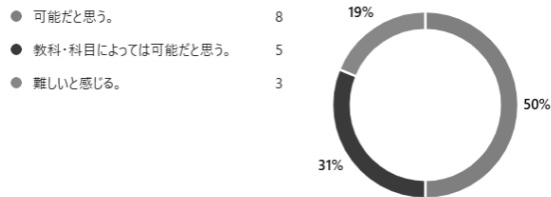
- ・ 生徒の手袋が緩想だった。もう少しぴったりしたものを使った方が安全。
- ・ 教師も生徒と同じ帽子・エプロンが望ましい。
- ・ 皮むきなどは包丁を果物包丁に変えてもいいのでは？

など

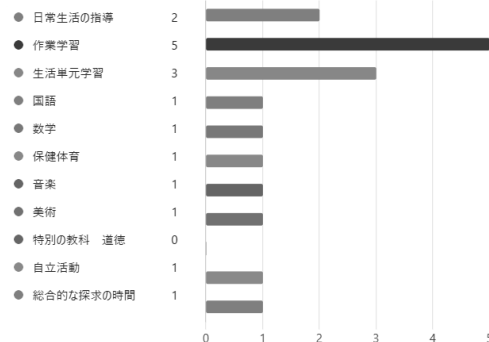
4 学部研究のまとめ(成果と課題)

(1) 成果

今回の学部研を通して、「評価例」の作成は可能だと思えましたか？



「教科・科目によっては可能だと思う。」と回答された方にお聞きます。どの科目なら可能だと思いますか？（複数回答可）



- 演習を行う中で、評価例の作成は可能だと考える意見は、「教科・科目によっては可能」を含め可能だという意見が8割を超えた。
- 「教科・科目によっては可能」という意見の中では、特に作業学習において作成可能であるという意見が多い。
- その理由として、作業種は違うが、基本となる働く力に係わって検討しながら作成することは可能と思われる。

(2) 課題

- 評価例の作成が作業学習において可能であるという意見はあったものの、現段階では実践するには情報量が不足しているという意見がある。
- 各作業班から評価すべき生徒個人の活動の様子を考えられる限り観点別にピックアップ、ブラッシュアップし、全生徒分をまとめリスト化する（更新必要）ことで、「このような様子が見られたらこの観点で評価できる」程度の割り当てができるのではないかと。
- 評価例の作成が難しいとされる理由については、高等部になると小学部から高等部までのすべての目標や評価を考えることになる点が挙げられた（小学部段階だと可能かもしれないという意見も）。高等部だと量が膨大で断念することになると思われる。
- 各教科合わせた指導はさらに各教科にまたがる内容で評価することになるため。また、テンプレートにすると生徒個々の違いが見えにくくなるという懸念がある。